



なっとくんの

2013年10月4日

No.33

県立山口
博物館
学校地域
連携担当

なるほどなっとくニュース

なっとくんの「なるほどなっとくニュース」は、No.1 から県立山口博物館のホームページで見ることができます。

やく おくねん まえ か い か せ き
約2億年も前から変わらない姿！「生きている化石」はたくましい！



カブトガニの大きさを測るときは、全長では尾剣（尾）が短い固体もあるので、参考にはなりません。



ということで、前体幅（横幅）を測りますが、そのままでは左のように難しいので、かわいそうですが、ちょっとひっくり返ってもらって測ります。もちろん、すぐに元にもどしておきます。右は7 齢程度です。

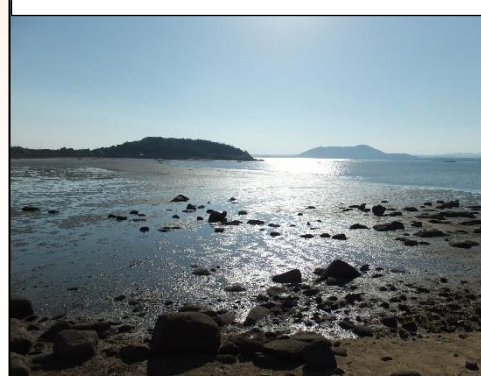
やまぐちわん かいさい ようせい
山口湾で開催されたカブトガニの幼生の
かんさつかい さんか すう ようせい
観察会に参加しました。わずか数cmの幼生が
どろ かく けんめい ひがた うえ
泥をかぶって隠れながら懸命に干潟の上でエサ
をとっている姿を見ることができました。何と
いっても「生きている化石」。約2億年前の化石か
らほとんど姿が変わっていないカブトガニの
このようにたくましい姿をこれからも見られ
る地球であってほしいと思いました。(9/21 撮影)



泥をかぶって隠れています。
2 億年の知恵？ さすがです。



成体が海岸に流れ着いていました（メス）。
成体になるまで10 年近くかかります。



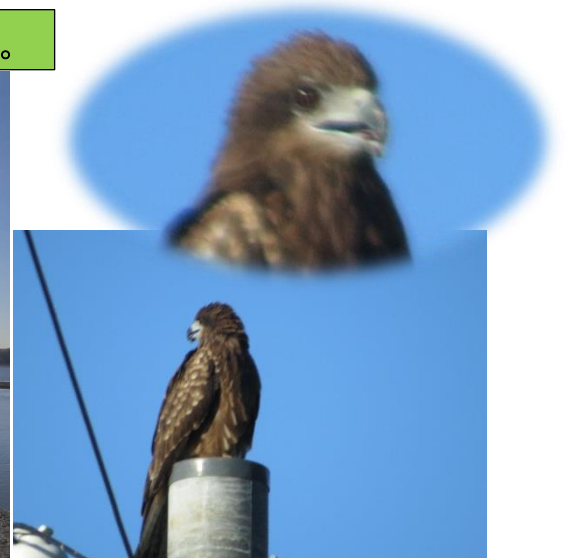
幼生は、このような砂泥質の干潟に生息しています。
歩くと結構足が埋まり込んで大変ですが、幼生はこうした干潮の前数時間しか泥から出てきて活動しません。

かんきょう そだ
この環境がカブトガニを育てています。

山口市の樫野（ふしの）川の河口（山口湾）。カブトガニの成体は、砂質の沖に移動するそうです。



7 月にカブトガニの産卵を観察した場所です。潮が引くところの通り。数億年前にカブトガニの祖先が誕生した頃はどんな風景だったのでしょうか。干潟は、今もカブトガニだけでなくさまざまな生き物の命のゆりかごです。ちなみに、アメリカや東南アジアのカブトガニは別種です。



トビ（トンビ）。どこでも見かける鳥ですが、こうしてみるとなかなか鋭いくちばしです。さすが猛禽類。でもちょっとかわいい・・・？